



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

追加型投信／海外／資産複合

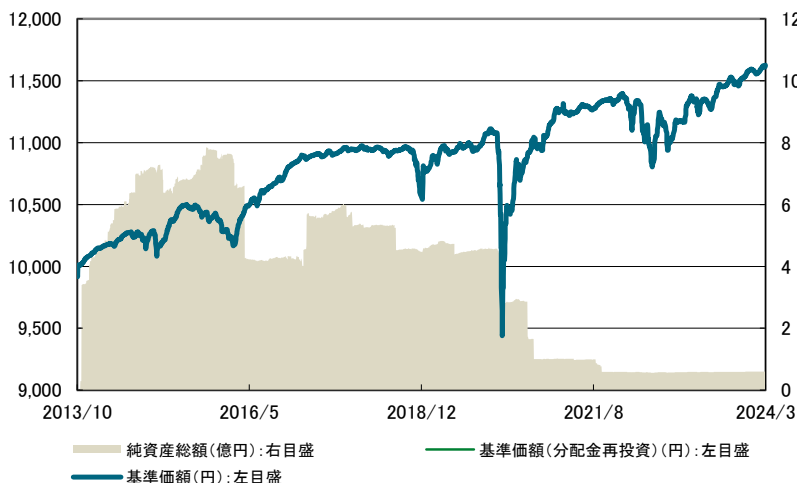
当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日



## バンクローン・オープン(円コース)(SMA専用)

### 基準価額の推移



- ※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

### 基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	11,626 円	+ 36 円
純資産総額	0.60 億円	+ 0.00 億円

### 期間別騰落率

	騰落率
1カ月	0.31%
3カ月	0.35%
6カ月	1.06%
1年	2.84%
3年	3.60%
設定来	16.26%

- ※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

### 分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 0 円

決算期	2021年7月	2022年7月	2023年7月
分配金	0 円	0 円	0 円

- ※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

### 組入投資信託証券の状況

投資信託証券	比率
HYFI Loan Fund-JPY-USDクラス	99.71%
マネープールマザーファンド	0.02%
その他	0.28%
合計	100.00%

- ※ 対純資産総額比です。

### 主要投資対象ファンドの為替ヘッジ比率

為替ヘッジ比率	99.11%
---------	--------

#### <本資料のお取扱いにおけるご留意点>

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

追加型投信／海外／資産複合

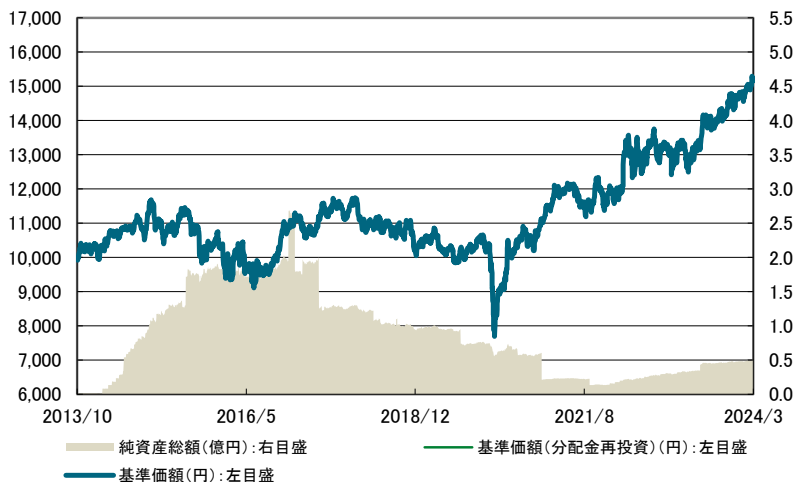
当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日



## バンクローン・オープン(豪ドルコース)(SMA専用)

### 基準価額の推移



- ※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

### 基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	15,193 円	+ 217 円
純資産総額	0.49 億円	+ 0.01 億円

### 期間別騰落率

	騰落率
1ヵ月	1.45%
3ヵ月	3.46%
6ヵ月	6.42%
1年	17.88%
3年	27.61%
設定来	51.93%

- ※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

### 分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 0 円

決算期	2021年7月	2022年7月	2023年7月
分配金	0 円	0 円	0 円

- ※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

### 組入投資信託証券の状況

投資信託証券	比率
HYFI Loan Fund-JPY-AUDクラス	99.73%
マネープールマザーファンド	0.02%
その他	0.25%
合計	100.00%

- ※ 対純資産総額比です。

### 主要投資対象ファンドの為替取引

為替取引比率	101.25%
--------	---------

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

追加型投信／海外／資産複合

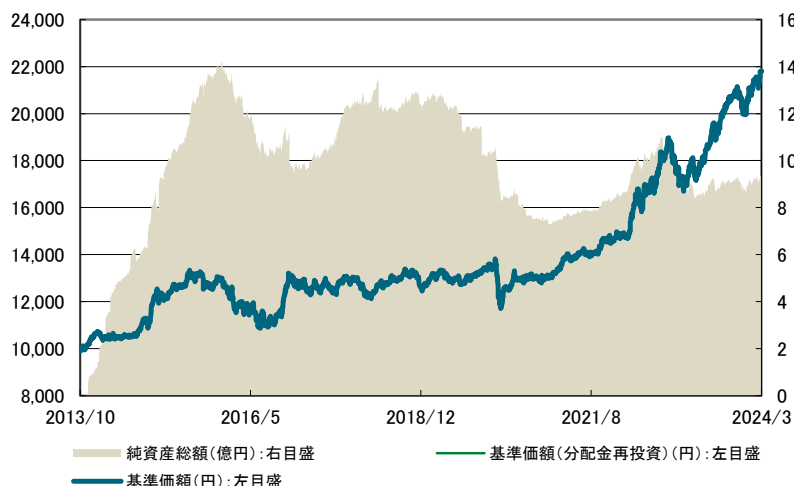
当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日



## バンクローン・オープン(米ドルコース)(SMA専用)

### 基準価額の推移



- ※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

### 基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	21,806 円	+ 243 円
純資産総額	9.35 億円	+ 0.05 億円

### 期間別騰落率

	騰落率
1ヵ月	1.13%
3ヵ月	9.33%
6ヵ月	5.48%
1年	24.29%
3年	55.70%
設定来	118.06%

- ※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

### 分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 0 円

決算期	2021年7月	2022年7月	2023年7月
分配金	0 円	0 円	0 円

- ※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

### 組入投資信託証券の状況

投資信託証券	比率
HYFI Loan Fund-JPYクラス	99.38%
マネープールマザーファンド	0.00%
その他	0.62%
合計	100.00%

- ※ 対純資産総額比です。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

追加型投信／海外／資産複合

当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日

### HYFI Loan Fundの資産の状況

#### 資産内容

バンクローン	担保付	94.59%
	無担保	0.00%
	その他	0.00%
	バンクローン計	94.59%
CLO		0.00%
債券	投資適格	0.00%
	非投資適格	3.24%
	その他	0.00%
	債券計	3.24%
キャッシュ・その他		2.18%
合計		100.00%

※ 対純資産総額比です。

#### 特性値

クーポン	8.27 %
直接利回り	8.28 %
最終利回り	7.20 %
残存年数	4.82 年
平均格付	Ba3
銘柄数	248

※ 一般的に、バンクローンのクーポンは、市場金利に借入企業の信用力に応じた金利が上乗せされる変動金利となっています。

※ 平均格付とは、基準日時点でファンドが保有している有価証券等の信用格付を加重平均したものであり、当ファンドの信用格付ではありません。

※ 各特性値は、現物資産に対する値です。また、利回り(税引前)は、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

#### 組入上位5業種

	業種	比率
1	電機	14.85%
2	金融	11.42%
3	コングロマリット(サービス)	10.58%
4	ヘルスケア/教育	8.69%
5	保険	4.77%

※ 対現物資産構成比です。

#### 格付別構成比

Baa	4.51%
Ba	46.15%
B	48.79%
Caa	0.48%
Ca	0.00%
C	0.00%
無格付	0.07%

※ 対現物資産構成比です。

※ 格付はムーディーズの格付を採用しています。

#### 国・地域別構成比

国・地域	比率
米国	88.14%
カナダ	3.11%
ルクセンブルク	2.67%
英国	1.60%
その他	4.49%
合計	100.00%

※ 対現物資産構成比です。

#### 通貨別構成比

通貨	比率
米国ドル	100.00%
その他	0.00%
合計	100.00%

※ 対現物資産構成比です。

※ 「HYFI Loan Fund」の資産内容等は、三井住友トラスト・アセットマネジメントがCredit Suisse Asset Management, LLCからの情報提供に基づき作成しておりますが、掲載データに関する情報の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

追加型投信／海外／資産複合

当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日



### 組入上位10銘柄

	組入銘柄(発行体名)	資産	業種	クーポン	比率	概要
1	UKG Inc	ローン	電機	8.814%	1.28%	人事関連ソフトウェアメーカー。ソフトウェア・ソリューションを設計、開発、販売する。企業の雇用サイクルを管理するためのクラウドベース機能を提供。世界各地で事業を展開。
2	HUB International Ltd	ローン	保険	8.574%	1.22%	米国およびカナダで事業を展開する保険仲介サービス会社。事業および個人保険サービスを提供する。
3	Altice Financing SA	ローン	放送/エンターテインメント	10.314%	1.06%	同社はルクセンブルグに拠点を置く持ち株会社で子会社を通じてデジタル、アナログなどケーブルテレビやブロードバンド通信、インターネット、留守番電話サービスを提供。
4	Polaris Newco LLC	ローン	電機	9.574%	0.93%	同社はSoleraとして、見積書や請求書のための統合アプリケーションなど、データ処理ソフトウェアの提供に特化した事業を展開。
5	Firstlight Financial Corp	ローン	通信	8.942%	0.93%	中堅企業を中心にカスタマイズされた商業ファイナンシャルプラットフォームを提供。
6	UFC Holdings LLC	ローン	レジャー/アミューズメント	8.336%	0.90%	1993年設立の世界最大の総合格闘技のプロモーター。ボクシング、空手、柔道など様々な格闘技の出身選手が集い、試合は165を超える国・地域で放映されている。
7	Tempo Acquisition LLC	ローン	コングロマリット(サービス)	8.080%	0.89%	同社は、従業員の福利厚生管理や人事などの外部委託サービスを提供。
8	Citco Funding LLC	ローン	金融	8.422%	0.84%	世界中のヘッジファンドやプライベート・エクイティ、不動産などの運用ファンドや、機関投資家やファミリー・オフィスなどに対する様々な金融サービス、アドミニストレーション・サービスを提供する。
9	United Airlines Inc	ローン	航空宇宙/防衛	8.076%	0.84%	航空輸送サービスを提供。旅客および貨物を輸送する航空会社を保有・経営する。世界各地で事業を展開。
10	American Builders & Contractors Supply Co Inc	ローン	建設/不動産	7.330%	0.83%	壁板、窓、外装及び内装製品、ツール、関連製品を提供する、米国の卸売資材会社。

※ 対純資産総額比です。

※ 「HYFI Loan Fund」の資産内容等は、三井住友トラスト・アセットマネジメントがCredit Suisse Asset Management, LLCからの情報提供に基づき作成しておりますが、掲載データに関する情報の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

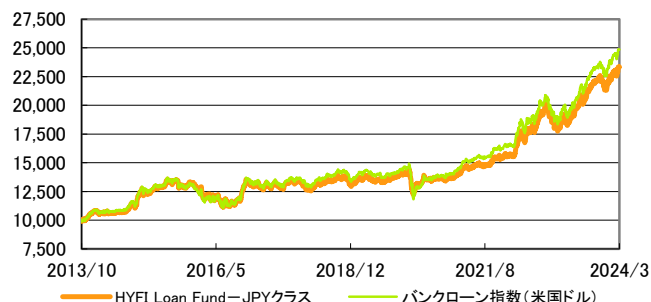
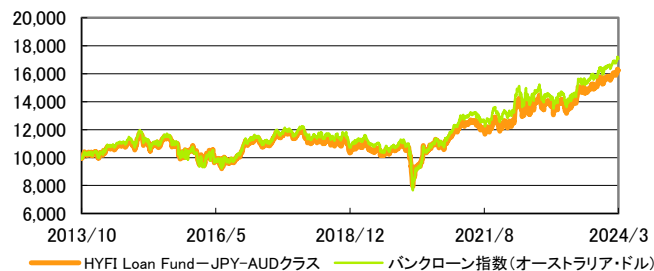
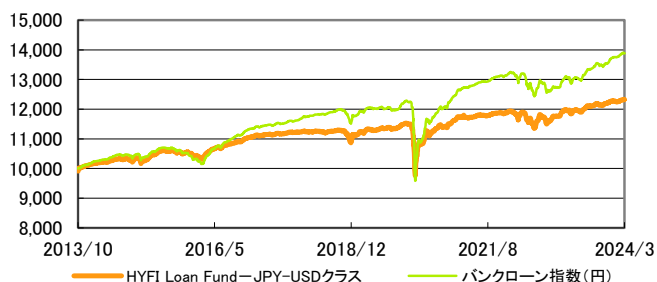
追加型投信／海外／資産複合

当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日



### HYFI Loan Fund 各クラスの基準価額の推移



- ※ 基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものとみなして修正した基準価額です。
- ※ 上記グラフは、HYFI Loan Fund 各クラスの基準価額(円建)を、バンクローン・オープンの設定日を10,000として指数化したものです。
- ※ 上記グラフの各バンクローン指数は、クレディ・スイス・レパレツジド・ローン・インデックス(米ドル建)を基に、各ファンドが投資する円建外国投資信託証券における為替効果を想定し当社が独自に計算したものです。

### ファンドマネージャーのコメント

#### 【市場動向】

米国バンクローン市場の代表的な指数であるクレディ・スイス・レパレツジド・ローン・インデックスの3月のリターンは+0.83%となりました。同インデックスの3月時点でのスプレッド(上乘せ金利)は前月から0.11%縮小し、5.09%となりました。平均価格は前月末対比で0.26ポイント上昇し、96.01となりました。

業種別のパフォーマンスで見ると当月全ての業種でプラスとなりました。中でも化学、非耐久消費財、エネルギーが相対的に好調で、それぞれ+1.23%、+1.21%、+1.14%となりました。一方で相対的に軟調となったのはメディア・通信、金融、金属・鉱業で、それぞれ+0.03%、+0.51%、+0.64%となりました。格付別のパフォーマンスでは、低価格付(CCC格/スプリットCCC格およびディストレスト)のリターンが+1.68%と最も好調で、続いて中価格付(スプリットBB格、B格、スプリットB格)+0.79%、高価格付(スプリットBBB格、BB格)+0.75%の順となりました。

#### 【今後の見通しと運用方針】

本ファンドの平均格付は、Ba3/BB-の優先担保付ローンで構成されており、流動性も高く保たれているものと考えています。業種別では、電機、金融、コングロメイト(サービス)の組入比率を相対的に高く保っています。

堅調な企業業績、金利上昇観測を背景とした変動金利資産への資金流入などから当面バンクローン市場の動きは良好とみていますが、人件費や原材料価格の上昇によるコスト増、およびインフレ率の高止まりを背景とした需要の減速が企業利益を圧迫する可能性には注意が必要なことから、引き続き慎重な姿勢で運用に取り組めます。

※ 「HYFI Loan Fund」の資産内容等は、三井住友トラスト・アセットマネジメントがCredit Suisse Asset Management, LLCからの情報提供に基づき作成しておりますが、掲載データに関する情報の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

追加型投信／海外／資産複合

当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日



### ファンドの特色

1. Credit Suisse Asset Management, LLCが運用する以下の円建外国投資信託証券(以下「主要投資対象ファンド」といいます。)を主要投資対象とします。

コース名	主要投資対象ファンド
円コース	HYFI Loan Fund—JPY-USDクラス
豪ドルコース	HYFI Loan Fund—JPY-AUDクラス
米ドルコース	HYFI Loan Fund—JPYクラス

○「マネープールマザーファンド」受益証券にも投資します。

○コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券並びに短期金融商品等に直接投資することもあります。

2. 主要投資対象ファンドへの投資を通じて、主として米ドル建の貸付債権(バンクローン)に投資します<sup>※</sup>。

※ハイイールド債券等にも投資します。

<バンクローン>とは

銀行などの金融機関が、事業拡大などのために資金調達を希望する企業などに対して行う融資(ローン)を指します。

一般的に、バンクローンは投資適格未満の格付を有する企業への変動金利のローンです。

3. 通貨が異なる3つのコースがあります。

コース名	主要投資対象ファンドで行う為替取引・為替ヘッジの内容
円コース	米ドル建資産に対し、原則として対円で為替ヘッジを行います。 為替ヘッジの内容:米ドル売り 日本円買い
豪ドルコース	米ドル建資産に対し、原則として下記の為替取引を行います。 為替取引の内容:米ドル売り 豪ドル買い
米ドルコース	米ドル建資産に対する為替取引は行いません。

販売会社によりお取扱いファンドが異なる場合があります。詳細につきましては販売会社にお問い合わせください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

当初設定日 : 2013年10月1日

追加型投信／海外／資産複合

作成基準日 : 2024年3月29日



### 投資リスク

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。  
従って、**投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様には帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

【為替変動リスク】

(豪ドルコース)

ファンドが主に投資する外国投資信託の組入資産(米ドル建)について、原則として米ドル売り豪ドル買いの為替取引を行いますので、豪ドルに対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。

(米ドルコース)

ファンドが主に投資する外国投資信託の組入資産(米ドル建)について、為替取引は行いません。従って、米ドルに対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。

(円コース)

ファンドが主に投資する外国投資信託の組入資産(米ドル建)について、原則として米ドル売り円買いの為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

為替取引を行うことにより、米ドル／円の為替変動リスクから為替取引対象通貨／円の為替変動リスクに変わります。

【為替変動リスクと基準価額に与える影響】

	基準価額に影響を与える 為替変動リスク	円安 (為替取引対象通貨高)	円高 (為替取引対象通貨安)
円コース	*1	*1	*1
豪ドルコース	豪ドル／円の変動	基準価額上昇	基準価額下落
米ドルコース	米ドル／円の変動	基準価額上昇	基準価額下落

\*1:対円での為替ヘッジにより、為替変動リスクの低減を図ります(ただし、完全に為替変動リスクを排除できるものではありません)。

※米ドルコースは為替取引を行いません。

※上記は基準価額の変動要因の1つである「為替変動リスク」についてまとめたイメージであり、全ての変動要因を表しているものではありません。

ただし、上記の各コース(米ドルコースを除く)とも、上記の為替取引・為替ヘッジにより米ドルの為替変動の影響を完全に排除することはできませんので、米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替取引・為替ヘッジを行う各コースの対象通貨の短期金利が米ドル短期金利より低い場合には、当該通貨と米ドルの金利差相当分のコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。

【金利変動リスク】

債券、バンクローン等の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。ファンドが主要投資対象ファンドを通じて実質的に投資するバンクローンは変動金利であるため、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の債券と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者等の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券、バンクローン等の価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【信用リスク】

有価証券等の発行体等が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券等の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。ファンドが主要投資対象ファンドを通じて実質的に投資するバンクローンの債務者は相対的に格付が低いため、信用度に関するマーケットの考え方の変化の影響をより大きく受ける可能性があります。利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなるリスクがより高いものになると想定されます。

【流動性リスク】

時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。





## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

追加型投信／海外／資産複合

当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日



### 投資リスク

#### 《その他の留意点》

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。  
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。  
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。  
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

追加型投信／海外／資産複合

当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日

### お申込みメモ

- 購入単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入価額 … 購入申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
- 購入の申込者の制限 … 販売会社と投資一任契約を締結されている投資者等に限るものとします。
- 換金単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金価額 … 換金申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。(信託財産留保額の控除はありません。)
- 換金代金 … 原則として、換金申込受付日から起算して9営業日目からお支払いします。
- 申込締切時間 … 原則として、販売会社の営業日の午後3時までとします。
- 購入・換金申込受付不可日 … 申込日当日又は申込日の翌営業日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申込みを受け付けられないものとします。  
 ニューヨークの銀行休業日  
 アイルランドの銀行休業日
- 換金制限 … ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金申込受付の中止及び取消し … 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は購入・換金のお申込みの受け付けを中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの取消しを行うことがあります。
- 信託期間 … 原則として、2013年10月1日(設定日)から2028年7月10日までとします。
- 繰上償還 … 委託会社は、主要投資対象ファンドが償還されることとなった場合、その主要投資対象ファンドに投資を行っているファンドを解約し、信託を終了(繰上償還)させます。  
 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。  
 ・受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合  
 ・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合  
 ・やむを得ない事情が発生した場合
- 決算日 … 毎年7月10日(休業日の場合は翌営業日)です。
- 収益分配 … 年1回、毎決算時に原則として収益分配を行う方針です。
- 課税関係 … 課税上は株式投資信託として取り扱われます。  
 なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。
- スイッチング … 「バンクローン・オープン(SMA専用)」を構成する各ファンド間でスイッチングができます。スイッチングの方法等は、購入、換金の場合と同様です。  
 (販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合があります。)

### ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

■ 購入時手数料

**ありません。**

■ 信託財産留保額

**ありません。**

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

■ 運用管理費用(信託報酬)

純資産総額に対して年率0.55%(税抜0.5%)

■ 投資対象とする投資信託証券

純資産総額に対して年率0.65%

主要投資対象ファンドの信託報酬率には、投資顧問会社Credit Suisse Asset Management, LLCの運用報酬の他、受託会社・管理事務代行会社・保管受託銀行の報酬が含まれています。

■ 実質的な負担

純資産総額に対して**年率1.2%程度(税抜1.15%程度)**

この値は目安であり、投資対象ファンドの実際の組入れ状況等により変動します。

■ その他の費用・手数料

監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用等をその都度(監査費用は日々)、ファンドが負担します。この他、投資対象とする投資信託証券においては、当該投資信託証券の信託報酬とは別に、投資信託財産に関する租税や、投資信託の運営・運用等に要する諸費用が発生します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)


追加型投信／海外／資産複合

当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日

### 委託会社・その他の関係法人の概要

- 委託会社 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社(ファンドの運用の指図を行う者)  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号  
 加入協会 : 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会  
 ホームページ : <https://www.smtam.jp/>  
 フリーダイヤル : 0120-668001 受付時間 9:00~17:00 [土日・祝日等は除く]
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管及び管理を行う者)



**SMTAM投信関連情報サービス**  
 お客様が指定されたファンドに関する情報(基準価額、レポート)や投資に関するコラム等をLINEでお知らせします。  
※LINEご利用設定は、お客様のご判断をお願いします。  
 ※サービスのご利用にあたっては、あらかじめ[SMTAM投信関連情報サービス利用規約]をご確認ください。

### 販売会社

商号等	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	

- ・ お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、販売会社へお申し出ください。
- ・ 販売会社は今後変更となる場合があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



## バンクローン・オープン(SMA専用)

(円コース、豪ドルコース、米ドルコース)

追加型投信／海外／資産複合

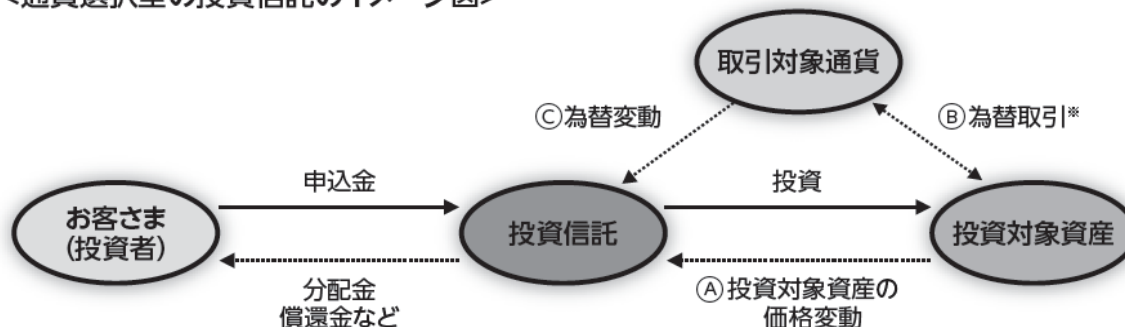
当初設定日 : 2013年10月1日

作成基準日 : 2024年3月29日

### 通貨選択型ファンドの収益のイメージ

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるように設計された投資信託です。

<通貨選択型の投資信託のイメージ図>



※ 取引対象通貨が円以外の場合には、当該取引対象通貨の対円での為替変動リスクが発生することに留意が必要です。

- \* <豪ドルコース>では、投資対象資産(米ドル建て)について、原則として対豪ドルでの②為替取引(米ドル売り・豪ドル買い)を行います。従って、豪ドル/円の③為替変動に伴うリスクを負います。
- \* <米ドルコース>では、投資対象資産(米ドル建て)について、原則として②為替取引は行いません。従って、米ドル/円の③為替変動に伴うリスクを負います。
- \* <円コース>では、投資対象資産(米ドル建て)について、原則として対円での為替ヘッジ(米ドル売り・円買い)を行い、米ドル/円の③為替変動に伴うリスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

- 通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに留意が必要です。

	①	②	③
<豪ドルコース>	収益の源泉 = <b>バンクローンの 利子収入、値上がり/値下がり</b>	+	<b>為替取引による プレミアム/コスト</b>
<米ドルコース>	収益の源泉 = <b>バンクローンの 利子収入、値上がり/値下がり</b>	+	<b>-</b>
<円コース>	収益の源泉 = <b>バンクローンの 利子収入、値上がり/値下がり</b>	+	<b>為替ヘッジによる プレミアム/コスト(注)</b>

	①	②	③
収益を得られる ケース	・債務者の信用状況の改善 ・金利の低下 <b>バンクローン価格の上昇</b>	・取引対象通貨の短期金利 >米ドルの短期金利 <b>プレミアム(金利差相当分の収益)の発生</b>	・円に対して 取引対象通貨高 <b>為替差益の発生</b>
損失や コストが 発生する ケース	<b>バンクローン価格の下落</b> ・債務者の信用状況の悪化 ・金利の上昇	<b>コスト(金利差相当分の費用)の発生</b> ・取引対象通貨の短期金利 <米ドルの短期金利	<b>為替差損の発生</b> ・円に対して 取引対象通貨安

※<米ドルコース>を除きます。

※<円コース>を除きます。

(注) 円コースのように、為替ヘッジを行うコースの取引対象通貨の短期金利が米ドル短期金利より低い場合には、当該取引対象通貨と米ドルとの**金利差相当分のコスト**がかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。